

広島市立飯室小学校 2学年 学級活動(2) 学習指導案

授業者：中山 孝 大築 聡美 日時：令和4年10月28日(金) 2校時 学年：第2学年1組(22名)

題材 「けがのぼうし」 (学級活動(2)ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成)

1 目指す児童の姿と付けたい資質・能力		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 危険な行動に気付き、けがを予防する意識がもてるようにしたい。 ○ 周りに気を配り、安全に行動できる児童を育てたい。 		
協働性	主体性	創造性
学校で起こりうる危険に気付き、けがを防ぐための方法について話し合う。	けがを防ぐための方法について考え、意思決定したことを実践する。	けがを防ぐ具体的な方法を見つけ、進んで取り組もうとする。



3 評価規準			
観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。
目指す児童の姿	学校で起こりうる危険に気付き、けがを防ぐための方法について理解している。	けがを防ぐための方法について考え、意思決定したことを実践している。	自分のけがを防ぐ方法を見直し、進んで取り組もうとしている。

2 題材について
(1) 児童の姿 本学級の児童は、年度当初、みんなで意見を出し合い、「みんなでいっぱいすけあう2年生」という学級目標を設定した。素直で明るく、友達に優しく接し、助け合う児童が多い。仲良く遊ぶ半面、自分のことや遊びに集中してしまい、ルールから外れてしまったり、周囲の状況を把握できていなかったりし、病院を受診するほどのけがが増えている現状にある。
(2) 題材設定の理由 学校生活において、けがが起こるのは当たり前のことであり、児童の発達に伴い、遊び方や様々なことへの取組方の変化によって、傷病の特徴も変わる。本題材では、2年生になり、活動が活発になった今、自分たちの遊び方とけがの内容を振り返り、安全に過ごすための手立てについて考える機会としたい。
(3) 指導にあたって 指導にあたっては、まず自分たちのけがの状況を示し、課題に気付くことができるようにする。次に、身近に潜む危険について想起し、けがが起こる因果関係から、原因とけがを防ぐための手立てを見つけることができるようにする。そして、安全に過ごすためにできそうな、自分に合った手立てを考え、意思決定できるようにする。その際、多様な考えが出るよう、支援したい。 事後は、意思決定した手立ての達成度について、日常的に振り返り、確認し合う場を設ける。そうすることで、互いの頑張りを認め合いながら、実践の継続化を図りたい。

4 指導と評価の計画

